

派遣期間 2012年4月～2015年3月



グアム日本人学校 帰国報告

～ Hafa Adai! ～

千歳市立青葉中学校
教諭 佐々木 康人

1. グアムについて

(1) グアムの概要

グアムは太平洋に浮かぶマリアナ諸島最大の島であり、アメリカ合衆国の準州である。連邦政府とは異なる独立した政治形態を持っている。地理的には西太平洋、ミクロネシアのマリアナ諸島南端にあつて、北緯13度、東経144度に位置している。

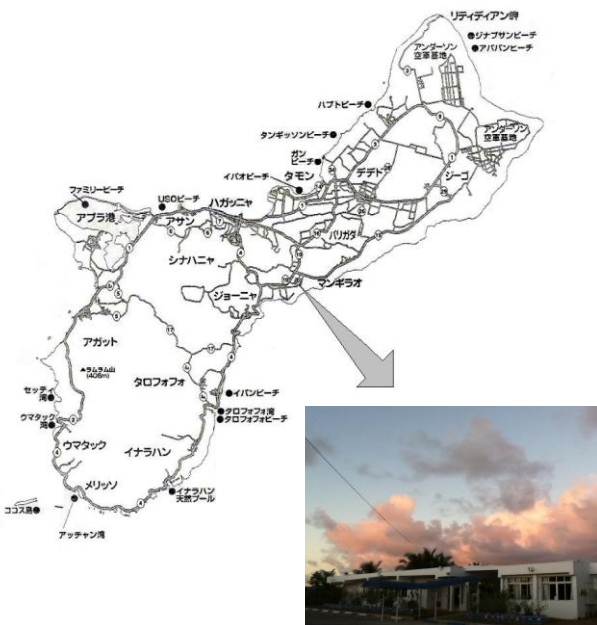
島の面積は約550 km²で、これは淡路島とほぼ同じ広さだ。南北約48 km、幅は約14～20 kmの細長い形をしている。人口は約16万人でチャモロ人(約40%)、フィリピン人(約25%)、その他アメリカ

人、中国人、韓国人、日本人などが居住している。(日本人は約3000人くらい)

チャモロ人と称する民族は、古来よりマリアナ諸島に居住しているチャモロ族で、褐色の肌、黒い髪をもち、背が高くがっしりとした感じである。約300年に及ぶスペイン統治の影響からカトリック教徒が多い。

気候は熱帯性海洋気候であり、年間を通して高温多湿のいわゆる常夏の島である。雨季と乾季があり、雨季にはスコールがある。

観光産業が盛んで、1年を通して日本人を中心に韓国や台湾からの観光客が多数訪れる。



グアム日本人学校

(2) グアムの歴史と文化

グアムの先住民はチャモロ人であるが、1521年マゼランが上陸し、1565年には、スペインの探検家レガスピーが島のスペイン領土を宣言し、その後300年以上もの間、1898年アメリカ・スペイン戦争によりアメリカに譲渡されるまで、スペインに統治されていた。スペイン統治時代の名残りは現在でも島内各地で数多く見られる。教会や石造りの家並み、各村の守護聖人を祭る「フィエスタ」、「ジーゴ(Yigo)」や「イナラハン(Inarajan)」などの地名のスペルと読み方、「スペイン広場」や「ソレダット小砦」といった観



ビーチには米軍上陸に備えた日本軍の砲台が今も残っている

光名所がそれだ。また、スペイン統治の影響からカトリック教徒が多いことも特徴だ。

1941年、第二次世界大戦勃発と同時に日本軍がグアムに上陸し、1944年7月21日（「Liberation Day」として祝日）アメリカ軍によって奪還されるまでの2年7ヶ月間、日本によって統治されていた。

1950年8月1日、トルーマン大統領は、グアム自治法に署名し、7月21日解放記念日にさかのぼって発効した。グアム島民にアメリカ市民権が与えられ、21人からなる立法院の設立が認められ、アメリカ本土人を含めたグアム島民の政府ができた。

（3）グアムの教育について

①グアムの教育制度

アメリカはそれぞれの州により法律が定められているが、教育についても同様であり、州の責任事項となっている。グアムはカリフォルニア州の準州であるため、基本的にはカリフォルニア州の制度にならないながらグアム独自の教育制度が定められている。グアムの義務教育は5歳から16歳までの12年間で、基本的には小学校5年間・中学校3年間・高校4年間の5・3・4制の学校制度がとられている。

義務教育期間の12年間の教育費は無料である。しかし、あくまで年齢で区切られており、高校卒業まで保証されているわけではない。つまり、高校在学中にその期間が切れてしまうわけであり、それが理由で高校中退につながることも多い。

グアム島内には小学校25校、中学校7校、高等学校5校で合わせて37校の公立学校がある。そのほか、ミリタリーの学校、カトリック系、クリスチャン系、チャモロ語学校、中国語学校、そして日本語学校などがある。高等教育としては、グアム大学とグアムコミュニティーカレッジとパシフィックアイランドユニバーシティがある。

②グアムの教育課程

グアムの公立学校は通常4学期制を用いている。カリフォルニア州の制度にならって教育を行っているため、9月頃（学校によっては8月から）学年が始まり、6月頃に学年の終わりを迎えている。また、日本の6・3・3制と現地の5・3・4制という学校制度の違いもあり、特に高校の入学時期においては、日本と比べて1年から1年半早く高校生活がスタートすることになる。日本人学校とは学年、学校の始まる時期や年齢が異なることもあり、日本人学校から現地の学校へ編入する際に保護者が苦労をしている実態もあり、課題の一つである。

2. グアム日本人学校の特徴

（1）グアム日本人学校の概要

グアム日本人学校はグアムに住む在留邦人の総意によって設立された学校である。グアム日本人会が母体となって運営を行っている。日本の教育関係法令及び学習指導要領に準拠し、日本国内における義務教育と同等の「日本人としての教育を行う」ことを基本としている。

「夢があり 世界に羽ばたく子」が創立以来の校訓である。グアムの地域性を生かし、国際性を身につけ、心豊かなたくましい子を育てることを目指している。

本校の子どもたちは「深く学ぶ子 共に生きる子 がんばりぬく子」を目標に、毎日、暑さに負けず明るく元気に学校生活を送っている。



校舎は観光客で賑わうタモン地区から車で20分のマンガラオ地区にあり、子どもたちはスクールバスか保護者の送迎で登下校している。



グアム日本人学校は、幼稚部・小学部・中学部で構成されている。またグアム補習授業校も同一校舎で授業を行っているという世界でも珍しい在外教育施設である。

グアム日本人学校の児童生徒の約5割は企業駐在員(航空関係・観光関係など)の子息で、残りの5割は永住者の子息である。ハーフやクォーターの子の割合が高く、中には両親ともに日本人ではなく、日本国籍を持っていない児童生徒も在籍している。

校舎の周りは自然に恵まれ、バナナの木の他にサワーサップ、釈迦頭など珍しいフルーツの木もある。

(2) 地域に開かれたグアム日本人学校

グアム日本人学校は、グアムに住んでいる様々な人々の支援・協力のもとで成り立っている。春の運動会と秋のスクールパフォーマンス(学習発表会)は、そういった支援・協力をしてくださっている地域の人に、グアム日本人学校の雰囲気や子どもたちの活躍を伝えることができる行事となっている。運動会は幼稚部・小学部・中学部が合同で行い、中学部がリーダーとなり、小学部の児童を指導する場面も多い。縦割り活動を重視しながら準備・練習を重ね、本番に臨んでいる。地域やPTAの方々の参加も多数あり、あたたかい雰囲気の運動会となっている。

スクールパフォーマンス(学習発表会)は2学期の目玉の行事であり、幼稚部、1・2年、3・4年、5・6年、中学部が劇や音楽発表を行う。2013年に完成した体育館をアピールする絶好の機会ともなっている。

2012年度には地域と深く関わる活動として全校遠足で南太平洋戦没者慰霊塔を訪れ、清掃活動を行った。グアム島は太平洋戦争で激戦地だったという過去がある。この慰霊塔清掃ではピースリングという戦争を語り継ぎ平和について考える活動をされている方々を講師に招き、そうした歴史を学ぶ機会を設定することができた。



11月には日本人会主催の秋祭りが毎年行われている。これはグアム島で最大級のイベントであり、日本人学校としても様々な形で関わる大切な行事の一つである。海外で暮らす子どもたちに日本の文化を体験させたいという日本人会有志の方々による子ども神輿では、事前指導も含めて大変お世話になっている。またグアム日本人学校の子どもたちによるパフォーマンスの発表機会も設定していただき、多くの観光客やグアムローカルに日本人学校の姿をアピールする絶好の機会にもなっている。



(3) グアム日本人学校の特徴

①グアム日本人学校のカリキュラム

①平成26年度 週時程表

	月	火	水	木	金
朝の活動 8:10~8:25	朝の会 読書・朝学習	朝の会 読書・朝学習	朝の会 読書・朝学習	集会・朝会 (全校・音読・ 音楽・児童生徒)	朝の会 算数・数学タイム
1 8:30~9:15					
2 9:25~10:10		下学年英語	上学年英語	下学年英語	
休憩: 10:10~10:25					
3 10:30~11:15		上学年英語	下学年英語	上学年英語	
4 11:25~12:10		中学部英語	中学部英語	中学部英語	
昼食・休憩: 12:15~13:00 清掃: 13:00~13:15 (木曜の清掃はなし)					
5 13:20~14:05					
6 14:15~15:00	小1 日本語	小2 日本語	小1 日本語		
7 15:10~15:55	クラブ	下校: 15時20分			パワーアップ 委員会活動
8 16:20~17:05	補充	アフタースクール			部活動
下校: 17時30分					

- 17 -

文部科学省から派遣された教員（派遣教員）と現地採用の教員により、学習指導要領に合わせ、日本国内の学校と同じカリキュラムの、日本語での授業を行っている。特に国語（日本語）教育には、国内の学校以上に力を入れている。

またグアムの高校に進学する生徒が多いこともあること、保護者からの要望も大きいことから英語教育にも重点を置いている。小学部1年生から、ネイティブ教師による英語での英語授業を週3時間実施している。（中学部はさらに週4時間、日本の中学校と同様の英語の授業を実施。）このことは、日本国内の公立学校と大きく異なる特徴の一つである。

その他の特徴として、月曜日と金曜日には7・8時間目が設定されている。これは教科時数の確保につながっている。月金

ともに必修は7校時までであり、8校時については希望制となっている。

月7のクラブは小学部の必修クラブであり、中学部の生徒も参加する。月8の補充学習は主に算数・数学、国語の基礎的・基本的な学習事項の習得にあてる時間であり、希望制で実施している。金7の「パワーアップ」は必修で算数・数学の力をより伸ばすための時間としている。中学部では数学の発展的な題材や日本国内の学力テスト対策のような内容に触れさせる機会としていた。金7の時間は月に1回児童生徒回活動にあてられる。金8の部活動は教職員が指導可能な運動系・文科系などの部を設置し、希望制で行なっている。

小1・2年生には特設日本語指導を行っているが、近年家庭の中で日本語をメインとしない児童が増えてきていることもあり、その重要性が増してきている。

②英語学習

グアム日本人学校では、国際理解教育の一環として、週3回のネイティブスピーカーによる英語の授業と、年1回行われる現地校との交流学习を設定している。

○ 英語活動の位置づけ

小学部は、1・2年生は「裁量の時間（3）」、3・4年生は「裁量の時間（1）」と「総合的な時間（2）」、

5・6年生では「英語活動（１）」「総合的な学習（２）」、中学部では「総合的な学習（３）」として実施している。

○ 目的

- ・ ネイティブの講師による英語を使用した英語授業により「読む」「書く」「聞く」「話す」の４領域にまたがる総合的な英語運用の力を育成する。
- ・ アメリカやグアムの文化をテーマに調べたことや自分の考えを英語でまとめて発表する英語でのプレゼンテーション能力の育成、自国文化や異文化に対する関心や理解を深める。



○ 指導にあたって

- ・ 経験豊富なネイティブの講師を採用し、英語での授業を行う。
- ・ 自国文化・異文化理解の授業では、調べ学習と英語でプレゼンテーションを行わせ、発表ごとに英語講師が「授業全体への取り組み」「書く力」「話すスピード」「声の大きさ」「顔の向き（姿勢）」を観点にして、ABCとコメントで評価する。
- ・ 総合的な学習の時間であることを考慮し、年３回（６月、１２月、２月）プレゼンテーションデーを実施。（プレゼンテーションのテーマ例 「権利の熱気球」「世界とグアム」など）

○ 保護者が期待する英語力



英語でプレゼンテーション

グアム日本人学校における保護者の願いの一つに英語力の向上があげられる。子どもたちの家庭での言語環境は多様化傾向にある。ある子どもは母が日本人、父がアメリカ人で、家での会話は英語が中心。ある子どもは両親が日本人で生まれも育ちもグアムだが、英語が苦手で英検二級をなかなか取得できず。ある子どもは両親ともに日本人だが、グアムでの生活が長いと姉との会話はほぼ英語。

学校での子どもたち同士の会話では、英語が飛び出すことも少なくない。授業中だけでなく、普段の会話も日本語で話すよう指導しているが、教師が近くにいないと、ついつい英語で会話している子どもたちが見受けられる。そのような状況なので「英語も日本語

もどっちつかず」になることを心配する保護者の声をよく耳にする。保護者の願う英語力の向上とは、日本語もしっかりと身に付けた上で英語でもコミュニケーションがとれる姿なのである。

③国語力（日本語力）の向上

○ 音読朝会

小学部の子どもたちが、主に国語の時間に学習した文章を音読する。詩や物語を中心に感情を込めて丁寧に音読する。音読後の感想発表では、上級生からは褒めてもらうことも多く、下級生にとってはよい刺激となっている。



○ 上級生による本の読み聞かせ

年に2回、読書指導の一環として、上級生による下級生に向けての本の読み聞かせを行っている。あらかじめ上級生1名に対して下級生1、2名のグループを編成。休み時間にグループで図書室へ行き、好きな本を選ばせ、読み聞かせ当日に希望する場所で読み聞かせを行う。小学部1・2年生の中には日本語の本の読書をする経験がない子が多いため、この取り組みの重要性が増してきている。



④念願の体育館完成

派遣1年目の秋に体育館の建設工事が始まった。これまでグアム日本人学校には体育館がなかったため、体育の授業はもちろん、いくつかの学校行事についても工夫しながら対応していた。

雨天時の体育の授業はやや広めの教室や校舎の軒下を利用し、入学式や卒業式は普通教室の移動式の壁を取り外し、特別な会場を設営して実施していた。学習発表会のような文化的な行事はホテルのバンケットルームや公共のホールなど校外の施設を借用しての実施であった。

体育館建設がスタートすると、グラウンドに次々と資材が運ばれ、重機が入り、毎日少しずつ建設作業が進んでいく様子を眺めることができた。2013年の6月に念願の体育館が完成。日本国政府、グアム在留日本人、日系企業などたくさんの方の支えがあって立派な体育館が完成した。



2学期の文化的な行事として実施してきた学習発表会は新たに完成した体育館での実施にともない、名称を「スクールパフォーマンス」に変更した。壁がないという体育館の構造上、とても暑い中での実施となったが、児童生徒は集中して練習の成果を発揮することができた。これまでは校外の会場を借用していた関係で、本番で使用するステージでの練習はリハーサルの一回のみだった。体育館の完成により、最初からステージで練習できたことで、自信に満ちた表情で子どもたちは本番を迎えることができた。

3. グアム日本人学校の現地理解教育・現地校との交流

(1) 現地校との交流学习の概要

英語学習の一環として、年に一度、現地校との交流学习が行われている。交流学习の目的は以下の三点。

- ・ 交流活動を通して、初めての友達にも積極的にかかわりながら、ともに活動することを楽しもうとする態度を育てる。
- ・ アメリカやグアムの文化に興味や関心をもつとともに、日本の文化について理解を深め、それを友達に紹介する機会にする。
- ・ 英語の時間等で学習したことを活かし、自分のことを表現したり、相手とかかわったりして、コミュニケーション能力の育成を図る。



時間が経つにつれとてもよい子どもたちの笑顔が見られる（小学部交流学习）

小学部は近年、相手校を固定して親睦を深めている。日本の遊び

や歌を紹介し、また現地校の子供たちからヤシの葉の編み方、チャモロ語の歌、伝統的な遊びを学んだりしている。パートナーとも顔なじみになり、アットホームな雰囲気です活動している。

中学部は訪問校が毎年異なるため、その年によって工夫しながら様々な活動を行ってきた。現地校の中学生や高校生との交流として、まずは日本文化などについての紹介を英語で行った後、パートナーと共に学校見学、昼食、授業参観という流れが基本となっている。新たな取り組みとして、現地校の生徒たちとともに異文化理解や人権尊重について考えるアクティビティを取り入れるなどして工夫を重ねているところである。

グアム日本人学校の児童・生徒たちが他校を訪問する取り組みを年に1回設定しているが、この他にも現地の小中学校の訪問も増えてきている。突発的な訪問依頼も多いこと、打ち合わせがスムーズに進まないことなどもあり、苦労も多いが日本人学校の日常の姿を伝える機会であることに加え、日本の文化を積極的に英語でアピールする機会となっている。児童生徒にとっても英語の学習で身につけた英語力を発揮するよい機会にもなっている。



パートナーとともにカフェテリアで昼食
(中学部交流学習)

(2) 授業実践

～2013年（平成25年）度Harvest Christian Academyとの交流学習での取り組みについて～

① 現地校との交流学習の充実を求めて

グアム日本人学校中学部の現地校との交流学習では、その目的をふまえながら英語担当教諭を中心に交流先の担当者の意向を伺いながら進めてきた。交流先のHarvest Christian Academyでは、日本の高校生に相当する学年で日本語クラスがあり、主にその所属生徒と日本人学校の生徒の交流の場ととらえている。交流学習の柱は日本人学校の生徒が自分たちで調べた日本の文化について英語で発表し、現地校の生徒はそれを受けて感想や質問などを英語や日本語でやりとりするというものである。また、現地校の生徒による学校案内や授業の説明、昼食時の会話なども重要なコミュニケーションの場として位置付けている。

2012年（平成24年）度のSt. John's Schoolでの交流学習では、日本の昔の遊びや今の遊びについて紹介したり、日本のアニメや漫画の紹介、日本の歌の紹介をプレゼンテーション形式で行った。事前に作成した原稿をもとに堂々で行うことができ、St. John's Schoolの生徒たちも興味を持って聞き入っていた。また、日本語クラスを参観した生徒は、St. John's Schoolの先生の代わりになってカタカナを教える場面もあり、充実した交流学習となった。交流学習後の反省では、さらなる充実を求めて、現地校の生徒たちとグアム日本人学校の生徒たちが授業や体験学習的なものと一緒に取り組む場面が取り入れられると良いという意見があがった。英語・外国語の学習を通してコミュニケーション能力を向上させ、グアムに生活している特徴を生かして異文化を理解し、共に生きようとする態度を身につける実践を具体化させるために、交流学習を有効に活用していくこととした。

2013年（平成25年）度のHarvest Christian Academyでの交流学習では、これまでの流れを基本としながら、新たな取り組みとして交流先の生徒たちとのグループワークに取り組む場面を設定した。

②「レヌカの学び」～自分の中の異文化に会う～ の実践

ア) 教材について

「レヌカの学び」とは多文化共生と人間尊重を考えるカードゲームである。この教材は開発教育協会DEARのサイトからダウンロードできる。ネパール人のレヌカさんが、実際にネパールで暮らしていた時と日本に滞在していた時の行動や考え方の変化をもとに教材化した異文化理解教材である。「国」というよりも「個人」の多様性を理解することができ、他の文化のバージョンにも応用しやすいのが特徴である。カードを使って、どちらがネパールで、どちらが日本でのことなのかグループで話し合っていく。

レヌカさんの体験を通して、異文化に出会うと同時に自文化あるいは自分の内面を見つめ直すことにつながり、さらにグループでのディスカッションを通して相手の意見に耳を傾け、尊重する態度を形成することをねらいとしている。

具体的なねらいは以下の3点。

- ・ 知らず知らずのうちに、自分の中でできている「思い込み」「偏見」に気づく。
- ・ 「レヌカの学び」は「自分の学び」であるということに気づき、異文化理解のカギは自分自身の中にあることを実感する。
- ・ ネパールという「国」ではなく、レヌカさんという「個」の視点に寄り添っていく「学び」のあり方を追求しながら、多文化共生のために私たち一人ひとりにできることを考える。



■原作：土橋泰子
■発行：開発教育協会
■初版発行協力：あおもり開発教育研究会／開発教育を考える会
■初版2004年8月2日、第2刷2007年1月30日、新版第1刷2011年4月1日
■価格：無料
■対象：小学生3年生以上

【教材の具体的な内容】

「ネパールにいたときのレヌカ」のカード、「日本にいたときのレヌカ」のカード、それぞれ9枚ずつある。それぞれには「私の夢は主婦になることなの」や「子どもたちはよく遅刻をしてくるわ」といった文章があり、グループでディスカッションしながらネパールにいたときの話か日本にいたときの話か分けていく。裏面には絵が描かれており、すべて正解しているとそれらの絵があらうようになっている。

そのグループディスカッションを通して、多様な意見に揺さぶられたり、自分の思い込みに気づかされたりしながら、自分を見つめなおしていくことにもなる。

イ) 実践にあたって

この教材の対象は日本語で学ぶ学習者であるので、まずは英語で学ぶ学習者にも対応できるように手を加えた。学習者はHarvest Christian Academyの日本語クラスを選択している高校生10名とグアム日本人学校の生徒である。全体の進行をグアム日本人学校の英語担当教師が英語を中心にして行い、スクリーンでは英語による説明を表示した。英語が得意ではない



日本人学校の生徒も数名いること、Harvest Christian Academyの生徒にとっては日本語の学習の場であるという意味も含めて口頭では日本語による説明も加えた。

「ネパールにいるときのレヌカ」のカード
(ネパールの絵の裏面)

My dream is to be a singer and dancer. 私の夢は歌手・ダンサーになることよ。	Some students bring snack and drink to school. 学校におやつや飲み物を持ってきて食べたり飲んだりする子もいるわ。	I take the day off when I feel a little sick. 軽いカゼでも仕事は休みます。
Students at the school for the deaf wear a uniform every day. 聾学校の子どもたちは毎日、制服を着て学校に来るの。	I eat breakfast every day. 私は朝ごはんは必ず食べるわ。	I wash my hands before I eat. 私はご飯を食べる前に必ず手を洗うよ。
I closely check vegetables and fruits when shopping. 野菜や果物を買うときはよく選んで買うわ。	Children often come to school late. 子どもたちはよく遅刻をして来るわ。	Children of different ages study together at school. 学校では違う年齢の子どもがいっしょに勉強します。

「日本にいるときのレヌカ」のカード
(日本の絵の裏面)

My dream is to be a homemaker. 私の夢は主婦になることなの。	Food is given to everyone at school. 学校で食べ物全員に配るのよ。	I go to work even when I'm a little sick. 軽いカゼなら仕事に行くわ。
Some children at school wear a uniform and others don't. 聾学校の子どもたちは制服を着る子も着ない子もいるわ。	I sometimes don't eat breakfast. 私は朝ごはんを食べないこともあるよ。	Children play with their handmade toys. 子どもたちは手作りのおもちゃで遊んでいることもあるよ。
I go to bed late. 私は「遅寝」をするわ。	Children rarely come to school late. 子どもたちはめったに遅刻はしません。	Children of the same age study together at school. 学校では同年齢の子どもが集まって勉強するんです。

ウ) 実践を終えて

教材のもつ力により、どちらの学校の生徒も意欲的に取り組むことができた。この教材における具体的なねらいの1つである「自分の中にできている『思い込み』『偏見』に気づく」姿がすぐに見られた。しかし、そこからグループ内で話し合いを深め、教材の主人公であるレヌカさんの学びが自分の学びに結びつくところまでは到達しなかったように感じる。

Harvest Christian Academyの生徒たちは日本語クラスに所属しているが、こうした活動で話し合いができるレベルではない。当然のことではあるが、活動中でのちょっとした呟きなどは英語である。グアム日本人学校の生徒たちの中には日常の英会話にそれほど不自由していない者がおよそ半数くらいいたが、この教材における話し合いの場面ではなかなか自分の考えを述べるできないでいた。家庭での英会話や友人との会話とは違ったレベルでの英会話能力が求められることに戸惑いを感じていたように見受けられた。(Harvest Christian Academyの生徒が高校生ということも影響していたと考えられる。)

グアム日本人学校の生徒にとって、普段の日常会話とは違う英会話の必然性を感じる良い機会になったのではないかと考える。Harvest Christian Academyの生徒にとっては、教材自体が興味深い内容だったと思われ、活動時に記入してもらったワークシートからもそのことが伺える。

(Harvest Christian Academyの先生にも好評であった。)

時間の関係からも、残念ながら本来教材が目ざしているところには到達することができなかった。しかし、普段の学校生活の中で英語と日本語という異なる言語で学んでいる2つの学習集団が、こうした優れた教材と一緒に取り組み、考えを伝えあおうとすることは今後の外国語の学習への動機づけになり、異文化理解の大切さを実感することになったのではないかと考える。教材が持っている力を存分に生かすことはできなかったが、こうした取り組みを積み重ねることで、生徒たち自身が外国語の学習の必要性を実感することや異文化に対する関心を高めることや理解を深めることにつながるのではないだろうか。

4. グアムでの生活を通して



ホテルや免税品店が立ち並ぶ
タモン地区の通称「ホテルロード」

派遣先がグアムに決まったときに、頭に浮かんだのは「グアム＝リゾート」ということだった。知識として、グアムには大国に翻弄された歴史や先の大戦の傷跡もあることは知ってはいた。

ホテルが密集するタモン地区や大型店に行けば毎日たくさんの日本人観光客がグアムを訪れていることがわかる。タモン地区の交差点は日本人観光客しか歩いていないのではと思う時もある。そこから少し離れてみると、日本にいたときに想像していたグアムとは異なる姿を目にすることができる。

グアム日本人学校の体育館建設の作業を眺めていたときに、作業をしている人たちが英語以外の言語で会話していることが気になった。建設会社の方に聞くと、グアムで建設作業に従事している人たちはフィリピン人が多いとのことであった。グアムにはフィリピン料理の店も多く、車にフィリピン国旗のステッカーを貼っているのを見かけることもある。

グアムの食生活を支えているスーパーには韓国の食材が豊富などところが多いことも特徴だ。韓国人が経営しているスーパーや小さな商店も多く見られる。

島の南部には米軍の海軍基地、北部には空軍基地がある。それらの基地はいずれも厳重にフェンスに囲まれ、関係者以外は立ち入ることはできない。しかし住宅のエレベーターで軍服姿の青年と一緒にあったり、空を見上げると大きな軍用機が飛んでいたりと、米軍が身近に存在していることを普段から強く実感する。島のインフラの整備は米軍の恩恵をかなり受けているとのことだ。



古代チャモロの遺跡「ラッテストーン」

このような側面だけを大まかに捉えて、グアムの観光業を日本人が支え、建設現場ではフィリピン人が多く働き、商業では韓国人が活躍し、インフラの整備はアメリカが行っているなどと単純化した見方もできる。もちろん他にもたくさんの国や地域の人がグアムでは暮らしているので、実際はもっと多様でさまざまな要素が絡み合っている。

さまざまな国や地域のコミュニティ的なもののがみ合い(?)、妬みのようなものがまったくないわけではないとのことだ。だが、それが表面化することなく、出身国・出身地域、肌の色など関係なく友好的で親切な雰囲気を持っているのがグアムで生活する多くの人の特徴である。これは先住民であるチャモロ人の文化や精神、島の風土の影響なのであろうか。そのようなことを想いながらグアムでの生活を楽しんできた3年間であった。

5. おわりに

私自身が今から30年ほど前の子どもの頃にブラジルのサンパウロ日本人学校に3年半通った経験がある。当時、日本人学校が果たす役割は、主に学習面に関わって「帰国して日本の学校に編入したときに困らないようにするため」と聞かされていた。一緒に通っていた友人たちもほぼ全員がそのように認識していたように思う。

グアム日本人学校での3年間を振り返り、自身の子どもの頃の状況と比較して日本人学校に求められるものが少し変化しているように感じている。グアム日本人学校には小中学校在学期間中や卒業時に帰国を前提

としている児童生徒がそれほど多くはない。これには企業駐在員の赴任期間の長期化や在留邦人の生活様式の多様化などさまざまな要因が影響していると考えられる。また国際結婚の家庭も増え、バイリンガル教育を目的とし、日本人学校を選択するケースも増えてきている。その場合、日本の国内の学校と同様のカリキュラムを基本とした日本人学校のカリキュラムに物足りなさを指摘する声も聞こえてくる。学校の運営に関わる日本人会の役員の方からは、「インターナショナルスクールのような形にして、新たな魅力を打ち出して児童・生徒を増やす道を検討してはどうか」などという意見を聞いたこともある。新たな日本人学校の姿が求められているのかもしれない。

現地校から編入してきた子どもたちは「日本人学校は学習内容がしっかり系統だっているのが良い」「学校行事の一つ一つが充実している」などと、私たち派遣教員が当たり前のようにとらえている部分に大きな魅力を感じている。ある保護者の方からは「義務教育の段階はできるだけ日本の教育を受けさせたい」という思いから日本人学校への通学を選択したと聞いたこともある。

海外で生活する日本人にとって、日本人学校に対する期待感や信頼感が大きいことは今も昔も変わらない。グローバル化と多文化化が進む新たな時代においては日本国内においてもこれまでの学校のあり方や学力観だけでは対応することが困難になっていくことが予想される。グアム日本人学校で学ぶ子どもたちにとって、グアムでの生活体験はこれからの時代を生きていく上で貴重な機会になると考える。

派遣教員として、在外教育施設とは日本の教育関係法令及び学習指導要領に準拠し、日本国内における義務教育と同等の「日本人としての教育を行う」ことを基本としているのだということを常に意識するよう心がけてきた。その上での英語の学習や現地理解学習、現地校との交流活動の充実に努めることも大きな使命の一つと考え3年間を過ごした。こうした取り組みの継続がグアム日本人学校の子どもたちの国際性を育むことの一助になることを願う。そしてこの経験を帰国後の日本国内の教育現場における自分自身の実践の中に生かしていきたいと思う。

最後にこのような貴重な研修の機会を与えてくださったみなさまに感謝を申し上げます。

日本人学校が選ばれる理由

- ☆ 日本から、海外派遣選抜試験、文部科学省の推薦に合格された優秀な先生方が揃っています。
- ☆ 少人数クラス編成なので、それぞれのレベルに合った指導が可能です。ネイティブスピーカーによる英語授業で内容のレベルアップで全員が英検2級取得をめざしています。
- ☆ アフタースクールが充実しています。補充学習、部活動、英会話、珠算などから選べます。お勤めをされているお母さんも安心してお仕事が出来ます。最終下校時間：17:30(月)、17:50(火、水、木、金)上級生、下級生の交流を多く取り入れて、そこから多くの事を学びます。
- ☆ 充実した年間行事を実施しています。5月遠足、6月運動会、7月水泳学習、9月宿泊学習、10月修学旅行11月現地校との交流学习、秋祭りへの参加、12月スクールパフォーマンス。また年間を通じて毎朝の読書タイム、読書強化月間を実施しています。
- ☆ 日本国内より国語、算数の授業が多い。日本語に弱点を持った子供についても個別授業を行っています。総授業時数も国内に比べ年間70時間～150時間多くなっています。
- ☆ 登下校時に安心して利用出来るスクールバスが便利です。
- ☆ 日本人会及び日本人会コミュニティのサポートによって、学校運営全般がスムーズに行われています。
- ☆ 体育館(昨年6月落成)では、体育授業はもちろん、スクールパフォーマンス(写真)などの学校行事を行っています。

グアム日本人学校に入学してから

我が家の家族構成は典型的な国際結婚の形で、主人がアメリカ人、私が日本人で子供たちがハーフという構成です。子供たちが小さいときは、ホームスクールというアメリカならではの形式をとっていました。確かに英語の習得には問題はありませんでしたが、私たちは子供たちに完全なバイリンガルになってほしいと思っていました。最初に補習授業校に二人とも入学させました。ここの日本語に対する第一段階の習得は大変有意義なものだったと思っています。しかし私たちは彼らにもっと徹底した日本語の習得を希望しました。そこで日本人学校の全日制という選択に至りました。

最初は、彼らがホームスクールという環境から一日中学校での生活、しかも日本語での授業についていけるか心配していましたが、信じられないくらいすぐに適応することができました。それは全て、森田校長先生をはじめ諸先生方の暖かく、そして真剣な指導があったおかげだと思っています。生徒達は皆、優しく明るく元気が良く、彼らを快く迎え入れてくれました。特に長男(中一)の方は、「この学校は、先生たちから一方的に規則を押し付けられるのではなく、生徒達が話し合っって色々なことを決めてくれるから良いのだ。」とよく自慢しています。そして、彼は「この学校はグアムで一番の学校だ。」と会う人皆に自慢しています。中一の長男は去年の11月から、小五の次男は今年の5月からの入学ですが、確実に国語の力は伸びています。そして他の全ての教科の知識も上達しています。まだ、同学年のほかの生徒さんたちと比べると知識や国語力では追いついていませんが、彼らは何よりもグアム日本人学校を誇りに思い、先生方を尊敬し、毎日楽しく安全に過ごすことができる機会に恵まれたことを親として心から感謝しています。

日本人学校 父兄

グアム現地校からの転校

両親が日本人の息子は、生まれて1年半後に通いだしたデイケアからセカンドグレードの終わりまで、英語教育環境で育ったため日本語よりも英語でのコミュニケーションの方がしっくりいっていたようです。これは育児を担当していた私に責任があると重々反省しています。母親が赤ちゃんと接するように、自分が息子に充分に接していなかったのではないかと思います。

今年の6月に毎年恒例の日本人学校全日部体験入学を試すと、息子は毎日楽しそうに、日本語での会話が日に日に上達していくのがわかりました。やはり一日中、日本語漬けの毎日は飛躍的に日本語能力を高めてくれます。そして7月から正式入学しました。もっと初期の小学1年生から始めるべきだったかとも思っています。現在は小1から通っている補習授業校も続けており、週6日間日本人学校のお世話になっています。少人数制のクラスにて、先生の目が行き届いた授業環境は素晴らしい、生徒一人ひとりに合った指導が可能な日本人学校は、グアムの日本語教育機関として唯一無二の存在と思っています。 菅谷 裕之

Japanese Restaurant **暖焔野** **嵯峨野サンデーランチ**
 大人4名様以上のご利用で1名様50%OFF

☆炭火焼 焼き鳥ステーション
 ☆アメリカンドラフトビール 飲み放題
 寿司、天ぷら、鉄板焼き 食べ放題
 大人 \$32 / 11歳以下のお子様 \$16
 ※上記料金に10%サービス料金が掛ります。

Onward Beach Resort ご予約・お問合せ
 Tel:(647)7777(内線4413)

DIVING グアムの海をもっと楽しもう!!
 ::グアムにいる間にこの綺麗な海でダイビングに挑戦して見ませんか?::
 ライセンスをお持ちでない方、既にお持ちの方、取得をお考えの方

在住の方料金や、遊びにいらしたお友達料金など各コース特別割引料金を設けています。
 特別料金のため、選日や、開催不可日などご希望に添えない場合がございますので、ご希望の方は一度お電話にてお問合せ下さい。

詳しくはお電話又はメールにてお気軽に
 ☎ 688-1163 or guam@s2club.net
 http://www.s2club.net/guam/index.html
S2 CLUB GUAM

S2 CLUB DIVE MARINE SPORTS